

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	有限会社アゴラ企画	
施 設 名	こまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	30,389	(千円)
公演事業	23,396	(千円)
人材養成事業	3,586	(千円)
普及啓発事業	3,407	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	青年団『カガクするココロ』『北限の猿』『その森の奥』	7月5日～7月15日	『カガクするココロ』『北限の猿』『その森の奥』【出演者】島田曜蔵、他【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	1,820
		こまばアゴラ劇場		実績値	1,991
2	青年団国際演劇交流プロジェクト『隊長退屈男』	6月22日～6月26日	『隊長退屈男』【出演者】三島景太【スタッフ】台本・演出：ジャン・ランベール＝ガルト 他	目標値	275
		アトリエ春風舎		実績値	279
3	青年団『走りながら眠れ』 京都公演	10月2日～10月6日	『走りながら眠れ』【出演者】能島瑞穂、古屋隆太【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	450
		THEATRE E9 KYOTO		実績値	436
4	青年団『東京ノート』『東京ノート・インターナショナルバージョン』	2月6日～3月1日	『東京ノート』『東京ノート・インターナショナルバージョン』【出演者】山内健司、他【スタッフ】作・演出：平田オリザ 他	目標値	3,750
		吉祥寺シアター		実績値	3,936
5	青年団リンク 公演	8月13日～12月1日	『工場』『アリはリスクを食べない』他【出演者】【スタッフ】青年団リンク世田谷シルク、青年団リンクやしやご、他	目標値	2,080
		こまばアゴラ劇場		実績値	1,861
6	うさぎストライプ 公演	4月3日～4月8日	『ハイライト』【出演者】亀山浩史、菊池佳南、他【スタッフ】作・演出：大池容子 他	目標値	675
		こまばアゴラ劇場		実績値	532
7	ホエイ 公演	4月11日～4月21日	『喫茶ティファニー』【出演者】尾倉ケント、斉藤祐一、他【スタッフ】作・演出：山田百次 他	目標値	900
		こまばアゴラ劇場		実績値	849
8	玉田企画 公演	10月24日～11月4日	『街の下で』【出演者】青木柚、川崎麻里子、他【スタッフ】作・演出：玉田真也、今泉力哉 他	目標値	980
		こまばアゴラ劇場		実績値	1,268
9	青☆組 公演	12月8日～12月17日	『Butterflies in my stomach』【出演者】福寿奈央、大西玲子、他【スタッフ】作・演出：吉田小夏 他	目標値	600
		アトリエ春風舎		実績値	571
10	こまばアゴラ劇場 5～6月 公演	5月12日～6月23日	『お気に召すまま』『10分間2019～タイムリフが止まらない～』他【出演者】【スタッフ】ストミック、中野劇団、他	目標値	2,265
		こまばアゴラ劇場		実績値	2,175
11	こまばアゴラ劇場 12～3月 公演	12月5日～3月16日	『冒した者』『亡霊たち』『ゆうめいの座標軸』【出演者】【スタッフ】劇団速度、GAPI、ゆうめい	目標値	3,080
		こまばアゴラ劇場		実績値	2,119
				目標値	
				実績値	





## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

こまばアゴラ劇場が目指す、『劇場文化』の定着と世界的芸術作品の創造「海外公演・国際交流事業の推進」「地域ネットワークの構築推進」「人材養成・普及啓発事業の拡充」というミッションに基づき、17事業を実施。内容・予算共に（予算については事業毎の多少の増減はみられるものの）ほぼ交付要望書の計画通りに進めることが出来たと考えている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

こまばアゴラ劇場が通常の貸し小屋業務（賃貸料を取って劇団に劇場を貸す日本の従来の劇場システム）をすべて停止し、劇場で行われる全公演を「こまばアゴラ劇場プロデュース」として活動し始めたのが2003年。以後これまでの15年以上にわたる継続的な活動により、平田オリザ率いる劇団青年団の創造活動は、「新作創作」「レパートリー作品のブラッシュアップ」「地方巡演」「海外公演」といったように、地域から全国、世界へと発信していくサイクルを確立してきた。これらの活動によってこまばアゴラ劇場・アトリエ春風舎は中小規模劇場の運営モデルの牽引役となり、全国の芸術団体が当劇場の利用を通して劇場が持つノウハウやミッションが共有され、近年では官民間問わず各地域の劇場が芸術家・芸術団体を支援・プロデュースしていくケースも増えてきた。こうした舞台芸術界全体の趨勢を見ても、当劇場の社会的なニーズは高く、引き続き活動の継続が望まれていると考えられる。また青年団演出部やこまばアゴラ劇場が主催した若手劇団からは近年、全国各地の様々な戯曲賞・演劇賞等の受賞者が毎年のように出ており、「こまばアゴラ劇場公演」「青年団リンク公演」といった創作活動による公演事業や「青年団若手自主企画」等の人材養成事業が堅調に機能している。以上からも、助成に値する意義が継続して認められると言える。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

公演事業・人材養成事業・普及啓発事業とも、いずれも指標として挙げた目標値を概ね達成するか、全年度水準を維持しており、目標に向けた着実な進捗が見られる。

#### 【主な指標】

##### (公演事業)

- ・ 支援会員数 (実績 338 人 / 目標 350 人)
- ・ 支援会員制度連携劇場数 (実績 5 劇場 / 目標 3 劇場)
- ・ ポストパフォーマンストーク開催回数 (実績 58 件 / 目標 55 件)
- ・ 平日マチネ公演回数 (実績 39 回 / 目標 35 回)
- ・ メールマガジン発信数 (実績 15 件 / 目標 12 件)
- ・ 支援会員特設割引制度による会員数 (実績 42 名 / 目標 40 名)
- ・ 託児サービス対象公演数 (実績 2 公演 / 目標 2 公演)
- ・ 訪日外国人入場者数 (実績 224 名 / 目標 250 名)
- ・ 新聞雑誌等主要メディアへの劇評記事等掲載件数 (実績 9 件 / 目標 6 件)

##### (人材養成事業)

- ・ 青年団若手自主企画公演作品創作者による戯曲賞・演出家コンクール等への応募数  
(実績 9 件 / 目標 8 件)
- ・ 青年団若手自主企画公演作品創作者による創作企画公演数 (実績 4 件 / 目標 5 件)
- ・ 高校演劇ワークショップ参加者による創作作品数 (実績 12 件 / 目標 12 件)
- ・ ワークショップ研修会参加者主体による普及啓発活動の  
コーディネート・ファシリテーション件数 (実績 6 件 / 目標 5 件)

##### (普及啓発事業)

- ・ 駒場幼稚園「こまばクラブ演劇ワークショップ」での上演来場者  
(実績 25 名 / 目標 22 名)
- ・ 防災ワークショップ実施件数の増加 (実績 11 件 / 目標 6 件)
- ・ ふるさと創造学ワークショップの参加者数 (実績 671 名 / 目標 800 名 ※少人数で集中的に行うワークショップも行ったため、事業全体での参加者数は減少しているが実施件数は増加した。)
- ・ 海城中学校 「演劇を使ったコミュニケーション研修」事業における参加者数の増加  
(実績述べ 960 名 / 目標 980 名)

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

舞台芸術の分野においては、効率性を高めるためにインプットを下げるためには、端的に言うならば「出演者数の少ない演目を制作する」ことが最も効果的と言えるだろう。しかしそれは芸術的な多様性（創造性）が犠牲となるケースもあり、そのバランスを考慮した上で事業計画が行われなければならないと考えている。公演事業番号3「青年団『走りながら眠れ』京都公演」は、少人数の出演者による上演時間 60 分程度の短編作品であり、過去 10 年に渡って全国を巡演し続けることで、少ないインプットで入場者数を稼いでいる。一方、公演事業番号1「青年団『カガクするココロ』『北限の猿』『その森の奥』」や公演事業番号4「青年団『東京ノート』『東京ノート・インターナショナルバージョン』」では、韓国・台湾・タイ・フィリピン・フランスなど、世界中の俳優と共同し、膨大なインプットを投入して創作された。上演に際してはそれぞれ計画通りの予算で進行し、目標通りの観客動員を数えた。『その森の奥』はその後韓国でも上演され話題となっており（フランス公演も予定していたが新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止された）、また『東京ノート・インターナショナルバージョン』は2021年度に欧州の複数の劇場から上演の打診を受けており、さらなる展開が期待されている。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業番号1『カガクするココロ』『北限の猿』『その森の奥』は、青年団と共にフランス・リモージュ国立演劇センター附属演劇学校、韓国・韓国芸術総合学校、こまばアゴラ演劇学校“無隣館”という、日韓仏それぞれの人材養成機関がタッグを組んで制作された国際共同事業である。韓国とフランスは、青年団がこれまでの国際交流事業において特に注力してきたパートナー国であり、3カ国の国際共同制作というハイレベルなクリエイションながらもこれまで培った経験やノウハウが十分に活かされた。公演事業番号4『東京ノート・インターナショナルバージョン』は、過去に平田オリザが韓国で制作した『ソウルノート』、台湾での『台北ノート』、タイでの『バンコクノート』、フィリピンでの『マニラノート』という、アジア諸国でのアーティストインレジデンスによって制作してきた作品群の集大成として各国俳優を招聘して新たに作られた。舞台上は上記4カ国語の他、日本語・英語・ロシア語と実に7カ国語が飛び交うという、他に類を見ないオリジナリティ溢れる創作となった。アジアの拠点劇場としての機能を活かし、このように国際色溢れる創作活動を軸に多種多様なクリエイションを展開している。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演事業番号1, 3, 4に見られる平田オリザ作・演出による公演や、フランス・リモージュ国立演劇センターとの国際共同制作（公演事業番号2）により、日本を代表する劇団として芸術振興の牽引力となるような創作活動を展開した。公演事業番号5～9では、青年団演出部所属演出家による創作で、若い才能のブラッシュアップを図った。いずれの演出家も舞台芸術のみならず、映画やテレビ・ラジオでも作品を提供するなど活動の幅を広げており、今後益々の活躍が期待されている。公演事業番号10, 11においては、全国各地の話題のカンパニーや、頭角を現しつつある気鋭の新人らによる創作活動を集め、東京という日本の中心に位置する劇場としての役割を果たすべく、多様なプログラミングを行った。人材養成事業においては、新人演出家・俳優の養成や、地域の高校と連携したワークショップ活動を継続して実施。特に高校生向けワークショップや高校演劇の紹介といった活動については、東京都高等学校文化連盟より長年の貢献が称えられ感謝状が贈られた。また今後ますます全国的な必要性が増していくと考えられるコミュニケーション教育分野において、専門性の高い人材をより多く輩出すべく、今年度より新規事業として「演劇ワークショップ研修会」を立ち上げた。こまばアゴラ劇場が長年継続し獲得してきた普及啓発事業等におけるワークショップファシリテーションの実績やネットワークを活かし、技術・ノウハウを共有していくという当劇場独自の人材育成活動によって、地域の文化芸術の発展や市場・裾野の拡大に寄与した。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

公演事業「青年団リンク 公演」「うさぎストライプ 公演」「ホエイ 公演」「玉田企画 公演」「青☆組 公演」はいずれも青年団演出部所属の演出家・劇作家が中心となって行う創作活動であり、こまばアゴラ劇場はこれまでも長年に渡って絶えず若手芸術家の育成に努め、岸田國士戯曲賞を始めとして様々な戯曲賞の受賞者を輩出してきた。上記「うさぎストライプ 公演」の作・演出を務めた大池容子は2018年度「希望の大地の戯曲 北海道戯曲賞」で大賞を受賞している。2019年度については、谷賢一が「第23回鶴屋南北戯曲賞」「第64回岸田國士戯曲賞」を受賞、松村翔子が「かながわ短編演劇コンペティション 2020 グランプリ」を受賞、綾門優季が「第10回せんがわ劇場演劇コンクール劇作家賞」を受賞と、多くの実績を上げている。本助成事業とは異なる作品における受賞であるが、いずれの作家もこれまで青年団演出部に所属しながら創作活動に勤しんできたことによる土台があり、そうしたバックグラウンドがこの結果にも大きく影響を与えていることは言うまでもない。また2019年度は平田オリザも、『マニラノート』（公演事業番号4『東京ノート・インターナショナルバージョン』に先駆けてフィリピンで滞在制作した作品）で“11th Gawad Buhay Awards Outstanding Ensemble Performance for a Play”を受賞、さらに年間の芸術活動全般を通じて「兵庫県文化賞」「関西元気文化圏賞 特別賞」を受賞するなど、若手に引けを取らない活躍を見せた。多くの人材がこのような評価を次々に得ていく中で、劇場に所属する芸術家は切磋琢磨し高いモチベーションを維持しながら日々創作活動を続けている。また創作だけでなく、ワークショップ等の普及啓発・アウトリーチ活動についても、内部でファシリテーターの養成・育成を行い、こまばアゴラ劇場が持つネットワークを通じて全国で事業を展開しており、こうした活動が作品の招聘へと繋がるケースも多い。そうした意味においても、こまばアゴラ劇場が実施する公演・人材養成・普及啓発といったそれぞれの事業によって、単発の独立したものではなく、互いに影響を及ぼし合うことで劇場の「機能強化」が推進されている。